



3_荻外荘に関する新発見



伊東忠太設計の現存する邸宅建築としての価値

荻外荘に対する伊東忠太の意志に関する近衛文麿の文章

「（前略）（入澤達吉の）親戚の伊東博士が、自分に任して〔ママ〕、自分の思う通りの家を建てさして呉れと申込んだのを承知して、伊東博士に一切を任されたのだそうである。伊東博士は、将来の日本家屋の標準を打ちたてるのだというえらい抱負と意気組〔ママ〕で、苦心経営、設計だけでも半年を費やし、工事に二年あまりをかけ、昭和三年〔ママ〕に竣工した」

※典拠：近衛文麿「荻外荘清談（三）」『政界往来』3月号、政界往来社、昭和15年（1940）3月

さいごに

当プロジェクトが完了したあと、新たな歴史が加わった荻外荘という地域の文化資源を、大切に維持管理していくことで、豊かな地域環境が作りあげられていき、その時に改めて「移築」に加え「復原」という行為の可能性が注目され、また社会的意義を獲得する

参考文献

- [A]_後藤治「保存・復原と近年の諸問題」『歴史的建造物の復元設計』
木造建築研究フォーラム第19回公開フォーラム資料、1992年、pp.11-27
- [B]_清水重敦『建築保存概念の生成史』中央公論美術出版社
- [C]_伊藤延男「日本における文化財保護の発達」『新建築学体系50 歴史的建造物の保存』
彰国社、1999年、pp.3-38
- [D]_村上昶一「明治以降の保存修理の歴史」『文化財建造物の保存修理を考える 木造建築の理念とあり方』
山川出版社、2019年、
- [E]_益田兼房「イコモス木の委員会の「歴史的木造建造物の保存原則」」
『文化財建造物の保存修理を考える 木造建築の理念とあり方』山川出版社、2019年、
- [F]_宮澤智士「保存と活用」『新建築学体系50 歴史的建造物の保存』彰国社、1999年、pp.373-399
- [G]_村上昶一「文化財建造物の保存と修理の歩み」『日本の美術』No, 525、山川出版社、2019年、
- [H]_近衛文麿「荻外荘清談」『政界往来』昭和15年3月